（別紙様式４）

令和8年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
ミス・パリ・ビューティ専門学校 東京校	平成22年1月19日	川口　亜美	〒　171-0014 （住所）　東京都豊島区池袋2-23-3 （電話）　03-3988-8198
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 ミスパリ学園	平成20年3月26日	下村　朱美	〒　224-0012 （住所）　神奈川県横浜市都筑区牛久保 （電話）　045-530-9119

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
衛生	専門課程(美容)	美容学科	平成23(2011)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	企業で実施されている技術、理論及び社員教育研修の一部をカリキュラム化し、学校に導入をする。それにより企業の求め人材育成が可能となり、より職業に直結した実践的な教育を行うことを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	サービスマナー検定・パーソナル検定・ネイル検定・ジェルネイル検定・メイク検定・美容師国家資格等

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	510 単位時間	240 単位時間	1,260 単位時間	単位時間	単位時間
		2,010 単位時間					
		単位	単位	単位	単位	単位	単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
160 人	94 人	1 人	0 %	2 %

就職等の状況

■卒業者数 (C)	:	42	人
■就職希望者数 (D)	:	42	人
■就職者数 (E)	:	42	人
■地元就職者数 (F)		6	人
■就職率 (E/D)		100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		14	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		100	%
■進学者数		0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和 7 年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

ｹﾝｼﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ、ERATH、PEEK-A-BOO、Euphoria、SIMA、Lond、Ash、Lila、Lapis、BASSA、Linda、等

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.miss-paris.ac.jp/tokyo/course/beauty/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	2,010 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	30 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	12 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		14 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	11 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

①企業で行っている教育内容の一部を本プログラムに導入し、技術レベルの高い教育により即戦力人材を育成する。
②就職後のミスマッチを未然に防ぐため、より実践的な教育内容とする。
③定期的に教育プログラムの見直しを行い、学校、企業のニーズを相互確認する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①企業及び業界団体関係者を含めた委員会を開催し、新しい知識や技術、接客マナーなどの社会人として必要とされていることについて意見交換を実施し、学校関係者評価委員会を取り入れ、カリキュラムの工夫や改善を検討する。
②教育課程編成委員会で検討したカリキュラムに基づき、学校主導でカリキュラムの見直し及び決定を行う。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
川口　亜美	ミス・パリ・ビューティ専門学校東京校　校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	ー
赤坂　真智子	ミス・パリ・ビューティ専門学校東京校　主任	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	ー
進藤　大	株式会社sline　代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
宮腰　大司	有限会社ヘアーゲスト　代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（7～9月、11～1月）

（開催日時（実績））
第1回　令和7年　6月27日　10:00～12:00
第2回　令和7年12月　5日　10:00～12:00
第3回　令和8年　6月23日　10:00～12:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

自分が良いと思ってやってきた事もお客様に否定されることもある。自分が好きな事だけ勉強するのではなく幅広く興味を持たせる事がとても大切。基礎技術を教えるほかに、例えば動物園など本物（実物）を見る機会を与え、自然界が生み出した色彩・造形を見る中に感性が豊かになる。カウンセリングの際お客様への提案やアレンジがきくようになる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①実際の店舗で行われている接客・技術を中心とする教育プログラムとし、接客業に不可欠な社会的基礎力を習得する。
②企業の現場で目指す接客・技術・知識のレベルの考え方を基本に教育する。
③全ての項目において、現場の顧客に満足を与えることを第一に考えた教育であること。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①企業の社員が先輩として、現場で経験した失敗例、成功例、失敗から学んだ事、アドバイス等を含める。
②現場で通用する技術・知識の実習プログラムとレベル試験を、新入社員研修と同様に行う。
③現場顧客の要求等の最新情報を伝える。
④企業教育担当者が最終評価表に基づき、各種技術・接遇マナーについて学生の評価を行う。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
IMS研修	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	現役の美容師たちとディスカッションをする中で、改めて美容師の素晴らしさに気付き、発信することで、自分の選んだ美容師という職業へ誇りもつようにする。美容師になろうと自分で選択した理由、将来のなりたい姿を考え、強い想いを持てるようにする。	社団法人 一生美容に恋する会 代表理事 河島 健氏
美容実習 ヘアカラーリング	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	基礎理論を学び、業界メーカーのインストラクターを招き、カラー総合理論や実技を学び、実際のサロンで求められている技術の習得とホイルワーク技術を学ぶ。現在サロンでおきる問題なども踏まえ、今後の戦力知識を習得する。	ウェラプロフェッショナル　教育部
美容実習 ヘアスタイル創作基礎	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	美容師として必要なカット、パーマネント、ヘアアレンジ等の技術を組み合わせ、一つのヘアスタイルを創作する事を体験し、実践的な美容師としての仕事の理解と感性を高める。	株式会社　ケンジ
サービスマナー・ ビジネス実務	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	授業で行われる「サービスマナー」をベースにサロンで行われる接客を学び、誘導やお声掛けなどの基礎マナーをを取り入れ実践させる。	有限会社 ヘアーゲスト 代表取締役　宮腰 大司氏
美容実習 サロン基礎技術	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	実践教育の一環として、美容用具の基礎技術やアシスタント業に必要な最先端技術を学び、就職後多くのサロンで試験化されている技術にいち早く対応が出来ることにより、即戦力となる指導に取り組む。	株式会社sline 代表取締役　進藤 大氏

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、教職員に対して、現在就いている職または将来就く事が予想される職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を習得させることにより、その業務の遂行に必要な教職員の能力、資質等の向上を図ることを目的とする。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　令和8年度即戦力養成講習会　　連携企業等：公益社団法人 日本理容美容教育センター
期間：　令和8年8月17日（月）～8月21日（金）　　対象：美容学科教員
内容　頭部のブローセット技術　クリエイティブ・テクニカルについて即戦力の技術力を養う

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：　美容技術理論・美容実習　指導資格認定研修会　　連携企業等：公益社団法人 日本理容美容教育センター
期間：　令和8年5月24日（日）～6月19日（金）　　対象：美容学科教員
内容　美容技術理論・美容実習を教示できるレベルまで学習し、養成施設教員資格認定を受ける。また他の教員へ情報共有を行い、教員全体でブラッシュアップすることを目的とする

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：　眉で顔を着せ替える　　連携企業等：東京地区 理容美容教職員研修協議会
期間：　令和8年10月2日（金）　　対象：美容学科教員
内容　アイゾーンに特化した技術、ラッシュリフトやアイブロウで目元の雰囲気を着せ替えていく

研修名： 最新ファッション＆ビューティトレンド　　連携企業等： 東京地区 理容美容教職員研修協議会

期間： 令和8年10月2日（金）　　対象： 美容学科教員

内容 2026-27年秋冬シーズンの最新ファッショントレンドからビューティ業界の注目トピックを学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： milbon 美容知識王　　連携企業等： 東京地区 理容美容教職員研修協議会

期間： 令和8年10月3日（土）　　対象： 美容学科教員

内容 コミュニケーション力、人間力をクイズで楽しみながら知識を増やして、自分の世界を広げていく

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

①教育に対する質や熱意等に関するアンケートを取り、教育内容や姿勢に関する見直しを随時行うこととする。

②次年度以降においては、卒業生あるいは保護者に対しても同様のアンケートを行うことにより、更に充実した職業専門教育を目指す。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	学校のビジョン及びそれを実現するための方針作成並びに理解
（2）学校運営	事業計画等の沿った運営方針の策定
（3）教育活動	教育内容は、教育理念・教育目標とその一貫性
（4）学修成果	学生の就職に関する目標設定とその成果
（5）学生支援	学生の心身面での管理・支援体制
（6）教育環境	教育目標達成に必要な施設・設備・教材の整備
（7）学生の受入れ募集	学生募集の計画とその成果
（8）財務	適正な予算管理の執行
（9）法令等の遵守	法令及び、専修学校設置基準の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	学校の教育資源・施設を活用した社会貢献と地域貢献
（11）国際交流	留学生規定の整備

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

進級率・卒業率アップの目標や継続的な学校環境の向上に努め、自己評価及び学校関係者評価の意見を基に、就職後に役立つ資格取得を目標にカリキュラムやシラバスを作成している。企業や業界が求める技術・知識・接客を徹底して指導し、就職希望者に関しては100%採用内定を頂いている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
東　千晶	株式会社シェイプアップハウス 代表取締役 副社長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員
平山　浩篤	学校法人ミスパリ学園理事、評議員	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	学校評議員
須賀谷　映子	NPO法人日本ｽﾊﾟ・ｳｴﾙﾈｽ協会　教育委員長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	業界団体等委員
越川　治枝	株式会社シェイプアップハウス　教育部　部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員
進藤　大	株式会社sline　代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員
宮腰　大司	有限会社ヘアーゲスト　代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））

URL： https://www.miss-paris.ac.jp/tokyo/info/

公表時期： 令和8年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
当該学科は、即戦力人材を育成、輩出することを基本方針としていることから、卒業生の就職状況、資格取得状況等を 企業に定期的に報告し、教育連携の成果を確認する。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の沿革、教育理念
（2）各学科等の教育	目指せる資格、卒業後の進路
（3）教職員	講師紹介
（4）キャリア教育・実践的職業教育	最先端の技術を学ぶ、洗練された美のプロフェッショナルを育成
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事、最先端の設備
（6）学生の生活支援	学生寮
（7）学生納付金・修学支援	奨学金制度の充実
（8）学校の財務	決算概要報告
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の報告書
（10）国際連携の状況	留学生規定の整備
（11）その他	ボランティア活動、地域貢献

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））
URL： https://www.miss-paris.ac.jp/tokyo/info/
公表時期： 令和8年7月31日

授業科目等の概要

	（専門課程（美容）美容学科）																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			専門理論	関係法規・制度	1通 2後	30	1	○			○			○	
2	○			専門理論	衛生管理	1通 2通	90	3	○			○		○	○	
3	○			専門理論	保険	1通 2通	90	3	○			○		○	○	
4	○			専門理論	美容技術理論	1通 2通	150	5	○			○		○	○	○
5	○			専門理論	香粧品化学	1通 2通	60	2	○			○			○	
6	○			専門理論	文化論	1通 2通	60	2	○			○			○	
7	○			専門理論	運営管理	1通 2通	30	1	○			○		○	○	
8	○			専門実習	美容実習	1通 2通	900	30	△		○	○		○	○	○
9		○		一般実技理論	美容美術Ⅰ	1通	60	2	○	△		○		○	○	
10		○		一般実技理論	美容教養Ⅰ	1通	60	2	○	△		○		○	○	
11		○		一般実技理論	美容美術Ⅱ	2通	30	1	○	△		○		○	○	
12		○		一般実技理論	美容教養Ⅱ	2通			○	△		○		○	○	
13		○		専門科目	総合美容	1通 2通	180	6	△		○	○		○	○	
14		○		専門科目	国歌試験対策	2通	270	9	△	△	○	○		○	○	
合計					14　科目			2010 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：所定のカリキュラムを履修し、学校の定める各科目の出席必要時間	１学年の学期区分	2 期
履修方法：全科目履修	１学期の授業期間	22 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。